

令和4年2月24日

保護者の皆さま

藤井寺市立藤井寺西小学校
校長 多田和彦

令和3年度 「学校教育自己診断」結果報告

1. 実施時期 令和4年1月（令和2年度より web 利用によるアンケート実施）

2. 児童（3～6年）アンケートより

（1）学習指導面

- 「学級は楽しい」は87.8%（前年比7.8%アップ）「授業が楽しい」は74.8%（前年比0.8%ダウン）概ね楽しく学校生活を送っているが10%に及ぶ否定的回答をした児童の様子に注意して、集団づくりや授業改善に取り組む。
- 「算数の少人数授業はよくわかる」は84.5%（前年比1.9%アップ）が肯定的な回答である。授業力向上のための取り組みを継続しつつ、本校の学力課題に応じた少人数指導体制への改善を継続する。
- 「総合の時間は楽しい」89.9%（前年比4.3%アップ）「外国語の時間は楽しい」70.6%（前年比9.5%アップ）「パソコンを使う授業は楽しくわかりやすい」88.2%（前年比1.2%アップ）であった。学習指導要領改訂の趣旨にのっとり、専科指導体制の点検を通してそれぞれが意味ある学習として児童に理解されるよう改善を継続する。また、GIGA スクール構想の具現化をはかる。
- 「みんなに自分の考えが言える」68.1%（前年比4.0%アップ）「悩んだときに相談する人がいる」93.3%（前年比2.9%アップ）「困ったときに相談できる友だちがいる」87.0%（前年比0.4%ダウン）が肯定的な回答である。児童理解の重要性と集団づくりに対する一層の工夫が必要である。「安心して話せる雰囲気作り」を学校として意識的に行う。

（2）生徒指導面

- 「自分の学級は協力的な学級だと思う」は77.7%（前年比1.8%アップ）「係や当番の仕事をきちんとしている」93.7%（前年比3.8%アップ）「今、だれかにいじめられたりしていない」83.2%（前年比7.5%アップ）であり、集団づくりや児童理解の面から継続的な点検が良い方向に向かっている。
- 「家の人に自分からあいさつする」は85.3%（前年比6.0%アップ）「見守り隊の人に自分からあいさつする」84.9%（前年比2.7%アップ）であり、自発的なあいさつの心地よさが身につくように、あいさつ運動強化月間などの取り組みを今後も継続する。
- 「図書室の本を読むのが楽しみ」は81.1%（前年比2.2%アップ）である。今後も授業や委員会活動を通して、子どもたちが読書を楽しめる取り組みを行う。
- 「夜の10時までには寝ている」57.6%（前年比9.8%アップ）「朝食は必ず

食べている」は91.6%（前年比9.0%アップ）。学力向上や健康維持のため。「ほけんだより」「学校通信」「児童朝会」等を利用した啓発が良い方向に作用したと感じる。コロナ禍の中、各家庭の協力に感謝している。

3. 保護者アンケートより

(1) 教育活動

- 「学校の様子がわかる」（73.4%前年比6.8%ダウン）「子どもはわからない事を先生に質問している」（56.9%前年比6.1%ダウン）「先生はノート確認をしてくれている」（94.1%前年比6.4%アップ）「子どもは、学習内容を理解している」（88.6%前年比5.1%アップ）「子どもは知識や技能を身につけてきている」（91.0%前年比3.6%アップ）「子どもは思考力・表現力を身につけてきている」（78.3%前年比0.9%ダウン）から、課題は散見されるが保護者が学校を信頼していただいていることが分かる。
- 「子どもは自分の力で宿題ができる」87.9%「子どもは学校生活が楽しいと感じている」90.3%「放課後学習タイムは有益と感じる」57.2%から、本校がこれまで取り組んできた独自の方法を見直す。

(2) 学校経営

- 「学校の情報提供は十分行われている」（92.8%前年比6.8%アップ）「通信類は学校の様子を知る参考になる」（94.5%前年比9.0%アップ）「スクリーン、ミマモルメ、LEBERは有効に活用されている」（94.8%前年比12.7%アップ）など向上傾向である。そうした中での校務支援ソフトの導入に合わせ、情報発信の内容や方法を改善していく。
- 「1人1台端末（タブレット）を家庭で活用できている」（75.5%）から、新しい取り組みではあるが順調なスタートと感じる。
- 「参観の時期や回数に満足している」（75.9%前年比2.2%ダウン）「げんき広場（校庭開放）に参加・協力したい」（53.4%前年比25.9%アップ）であった。コロナ禍の中これまで行ってきた様々な活動が中止されたが、教職員の働き方改革の観点からも検討課題と捉え方法を変更する。

4. 総合評価と今後に向けて

今回も2月10日の第3回学校協議会において、アンケート結果と本校の取り組みについて外部評価をいただいた。コロナ禍における学校経営であったが、児童・保護者ともにどの項目も肯定的な回答が多く、教職員や学校に対して信頼を得ていると感じる。学校の取り組みについては次年度から始まる、新たな連絡ツールを用いて、情報開示の内容や方法を改善し保護者の理解へとつなげる。

これまでコツコツと積み重ねてきた信頼関係を崩すことなく、今後も信頼を得ることができるよう、保護者や地域の方々の思いをしっかりと受け止め、学校経営に生かしていく。

来年度は本年度の結果を踏まえ、新たな重点目標を示した上で、学校教育目標達成をめざす。地域に愛される学校、信頼される学校づくりを推進していく。